

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3750200851		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム大小路		
所在地	宇部市上宇部字高田589番5		
自己評価作成日	令和2年12月27日	評価結果市町受理日	令和3年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和3年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別対応個々の入居者に合わせて支援する事に力を入れています。職員目線の業務中心では心身機能の低下が起こると考え能力に合わせたレクリエーション活動や運動を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者一人ひとりに寄り添われ、常に積極的な会話をされて、利用者の思いや意向を引き出すように取り組んでおられます。会話の中から「どこに行きたいのか、何が食べたいか」などを把握され、把握されたことは利用者と一緒に取組まれ、共に楽しまれ、利用者が理念にある「笑顔、喜び、元気」な暮らしであるように支援しておられます。食事づくりでは、利用者好みの既製おやつや手づくりおやつ、材料等の買物を楽しまれ、月1回の手づくりの献立づくり、誕生記念夕食会の楽しみなどに取り組まれています。外出では、ドライブで季節を感じてもらったり、車窓からの墓参りや短時間の初詣、買物等、コロナ禍で制限がある中でも、利用者の希望に添うように支援しておられます。利用者自らの「行動で納得してもらおう」よう、職員は本人の気が済むまで寄り添われ、何事にも利用者と共に取組まれ、共に楽しまれて、誰もが笑顔のある日々を過ごせるように取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	できる限りの説明をして対応している 年1回は、勉強会も開催している	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者と職員は年1回、理念について話し合っ共有し、何事も利用者と職員が一緒に楽しみ、利用者が笑顔のある暮らしとなるように実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス対策にて交流を禁止している	コロナ禍の中、地域での行事や活動もなく、事業所も地域の人が参加できる行事を開催していない。ボランティア(ダンス、パフォーマンス、大正琴等)から、来訪したいとの連絡が寄せられているが、待機してもらっている状況である。利用者は、事業所周辺の散歩や、週1回、商店でおやつや食材の買物に出かけた時、近くの神社に初詣に出かけた時に出会う地域の人と挨拶を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス対策にて交流を禁止している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	できていない	管理者は、職員と3カ月に1回の面談や11月からはアンケート(ケアの振り返りや今困っていることなど)を実施して、常に職員のケア評価に取り組んでいることから、一人でまとめた後に職員に確認してもらっている。職員は評価項目の理解はできているので、今後は職員個々に記録できるように取り組むこととしている。	・全職員による自己評価の取組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにて文書通知意見等は、ほとんど帰ってこない	会議は年6回、利用者の状況や活動状況、事故、ヒヤリハット報告、今後の事業計画について、コロナ禍の為、文書での報告としている。メンバーからの意見や要望、助言、質問を記録できる用紙も同封して、文書で意見ももらっている。メンバーからは、利用者の近況報告が楽しみであることや、コロナ禍で制限がある中でも利用者が心地よく過ごして欲しいことその他、感謝やねぎらいの言葉等が記録されており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のみ	市担当者とは、文書での運営推進会議時や電話、メールで情報交換や、運営上の疑義について相談をして助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、同一法人であり、法人の会議で出会った時に情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解して対応できている	職員は、年2回の内部研修や2カ月に1回実施している「身体拘束廃止委員会(職員による)」の事例等で、身体拘束や高齢者虐待、スピーチロックについて学び、身体拘束や虐待の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば、気持ちに添って納得のいくまで職員と一緒に出かけ、行動で納得してもらうよう取り組み、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	問題なく対応している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	問題なく対応できている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と同意が得られるように対応している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問題なく対応できている	相談や苦情の受付体制、第三者委員、外部相談機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議参加時に家族からの意見や要望を聞いている。コロナ禍の為、面会は県内の家族のみ、月に1回、15分間の面会としている。玄関に意見箱を設置している。毎月、家族宛に事業所便りと利用者を担当している職員からの利用者の暮らしの状況を手紙で知らせ、意見や要望が言いやすいように取り組んでいる。意見や要望はケース記録や連絡ノートに記録して職員間で共有している。個別ケアに関しても記録に残して、一部の職員が知るだけでなく、見落としや漏れの無いように取り組んでいる。家族からはコロナ禍の中でよくやってもらっていると感謝や労いの言葉が寄せられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談等対応しより良い運営を目指すために努力している	管理者は、毎朝の申し送り時や月3回(ユニット毎1回、合同で1回)の職員会議、係り業務、身体拘束廃止委員会の中で職員の意見や提案を聞いている他、3か月に1回の面談、毎月のアンケート(困っていることや、管理者への要望、ケアの振り返りなど)を実施して聞いている。管理者の方から「働きやすい職場になっているか」「困っていることはないか」を常に職員に問いかけて、意見や提案を出しやすいように努めている。職員からはユニット間での洗濯や入浴の調整について、誤薬の防止について、新人職員の指導等についてあり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で取り組んでいる		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加は、していません 内部研修計画的に行っている	外部研修は、情報を伝えているが、コロナ禍の為、受講をしていない。法人研修や法人内5つのグループホームでの合同研修も実施していない。内部研修は、年間計画を立て、毎月1回、管理者が指導者となって、理念についてや倫理、接遇、コミュニケーション、応急処置、身体拘束のリスクマネジメント、虐待について、感染症対策、計画と反省等を実施している。新人職員は、法人で年4回の研修の後、日々の業務の中で管理者や先輩職員が指導者となって介護の知識や技術を学べるように支援しているが、今年度は該当者がいなかった。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの勉強会は、開催しているが、他の施設とのかかわりはほとんどない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お話をすることで、本人様を理解して様々なニーズを発見できるように支援を心がけている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にしかお聞きできないことなど沢山ありますので、確実に伺い対応できるように心がけている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極める事に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築くことが出来るように日々努力している		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りの事は、していますがまだまだ努力が必要です。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない	家族の面会の他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から馴染みの神社に初詣に出かけ、買物時には馴染みの風景や行きたい場所に少し遠回りしてドライブするなど、コロナ禍の中感染防止を第一に、できることには取組み、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡し等の支援のして入所者同士の関係性の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に会話から引き出せるように対応している	入居時に家族や前施設から生活歴や生活環境を把握してアセスメント表を作成して活用している。職員は「話さないとわからない」と考えており、常に利用者と会話をするように心がけて、思いや意向を引き出すように取り組んでいる。入浴時や七夕の短冊づくりなど、会話の中から、行きたい所や食べたいものを聞きだし、利用者の表情や言葉、声のトーン、笑顔が見えた場面などをケース記録に記録して、思いや意向の把握に努め、介護計画に活かしている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期から継続的に引き継ぎ対応している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の計画内容は、事業所内でのことのみ	管理者と計画作成者を中心に月2回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向を聞いて職員で話し合い、介護計画を作成している。ケース記録の上段に介護計画のサービス内容を記録し、下段には時系列に実施したサービス項目をチェックして計画に添った実践ができていないかを一目で確認できるように工夫している。コロナ禍の中、墓参りを希望する利用者が、ドライブに出かけて車窓からお参りができたり、誕生日や月1回ある手作りの食事では利用者の好みの献立にし、月2回は好みのおやつのお買物に出かけるなど、把握した思いを実現できるように取り組んでいる。3か月に1回、モニタリングを実施し、計画の見直しをしている。利用者の状態の変化や家族の要望に応じてその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入に課題在り計画に反映できる内容には、なっていない		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状態に合わせて支援や声掛けなどの工夫はしている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>連携を図れるように努めている、入所者が納得して医療機関を選んでは、いない</p>	<p>利用者全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間毎の往診がある。他科受診は家族の協力を得ているが、現在はコロナ禍の為、事業所が受診支援をしている。受診結果は家族には電話で報告し、職員は連絡ノートに記録して共有している。法人の看護師が定期的に来訪して利用者の健康観察を行い、介護職と協働して健康管理を行っている。24時間オンコール体制にあり、夜間や緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
32		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>出来ている</p>		
33		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>適時行っている。</p>		
34	(14)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人様の意向は、なかなか伺う事は、できないが家族様とは、早期に話し合いを行い事前意思確認している。</p>	<p>「重度化した場合における対応に係る指針」をもとに、契約時に事業所でできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から本人や家族の意向を聞き、家族や主治医、看護師、職員で話し合い、看取りや医療機関、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	講習は、1年に1度以上行い継続して学ぶ機会を作っている。	事例が発生した場合は、ヒヤリハット、事故報告書に発生の状況や原因、対応を記録し、回覧して共有している。内部研修で、熱中症や食中毒を想定した応急処置研修を実施し、感染症の予防の実際等を学び、蘇生術や感染症予防(ノロウイルス、インフルエンザ、新型コロナウイルスなど)、転倒、離脱、誤薬、コロナが発生したら等、実際に起こった場面を再現して実践力が身に付くよう取り組んでいる。	・全ての職員が実践力をみにつけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力は、現状できていない避難訓練とは、計画的に行っている。	防火管理者(有料老人ホームの管理者)を中心に年3回、併設施設(有料老人ホーム)と合同で昼夜の火災(昼間を2回、夜間を1回)を想定した訓練を、利用者と一緒に、通報訓練や避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、防災機器の場所の確認と使用方法を実施している。災害時に備えて、非常用物品としてカセットコンロや一定量の食糧を備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来ていない時や気になる発言を耳にすることがあり課題が多い、常に入所者の立場になり考える事を伝え続けて支援するように教育は、している	職員は、内部研修(身体拘束のリスクマネジメント、接遇、コミュニケーション、倫理等)で学ぶと共に、管理者による「優しく丁寧な言葉づかいをすること」の指導を受けて、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な場合は管理者が指導している。個人情報適切に管理し、守秘義務は徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り考えて頂き決定出るような声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ていない		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来ていない		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ていない	三食とも法人厨房からの配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。食器の工夫や形態(ソフトやとろみ、刻み)の工夫、温かいものは温かくするなど、食欲を高め、自力で食べることができるよう工夫して提供している。毎月1回は利用者の好みの食事(海老天月見うどん、焼き肉等)を手づくりしている。利用者は、食材やおやつの買物、調理(包丁で切る、ハサミで切る、味付け、混ぜる、丸める、ひっくり返す)、盛り付け、テーブルを拭く、茶葉の袋詰め、お茶汲み、食器を洗う、下膳など、できることを職員と一緒にしている。誕生日には本人の好きな献立(お好み焼き、すき焼き、ちらし寿司等)にし、月2回のおやつづくり(たこ焼き、ホットケーキ、お汁粉、ケーキ、おはぎ、さつま芋のミルク揚げ、栗きんとん、芋団子、フレンチトースト)、季節行事食(おせち料理、バレンタインデーのチョコケーキ、節句の寿司、年越しそばなど)等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理しているが出来ているとは、言えない		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	習慣を生かしているとは、言えませんが出来る限りの支援をしています	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、不安や羞恥心に配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来ている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	していない、時間と曜日を決めている	入浴時間は毎日、14時30分から16時までの間とし、少なくとも週3回は入浴できるように支援している。入浴の順番や湯加減、好みの石鹸、季節の柚子湯等、利用者の希望に添ってゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。常時、車椅子を利用している利用者も、湯船にしっかりと浸かることができるように、職員の人数を増やして支援している。職員は、入浴時は利用者のコミュニケーションの場であり、思いを聞く機会と捉えている。入浴したくない人には無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見ながら対応している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しているとは言えない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ていない	テレビやDVD(歌謡曲)の視聴、CDを聞く、新聞や雑誌、本を読む、折り紙、ぬり絵(法人内のコンクールに13名出場し優勝者が出る)、切り絵、貼り絵、歌を歌う、カラオケ、坊主めくり、ぬり絵のカレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、オセロ、魚釣りゲーム、福笑い、ラジオ体操、リハビリ体操、口腔体操、しりとり、居室の掃除(掃く、拭く、整理整頓)、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を収納する、カーテンの開閉、おやつや食材の買物、調理、盛り付け、食器を洗う、下膳をする、誕生会、季節行事(敬老会、クリスマス、初詣)、ドライブなど、一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者の気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来ていない	事業所周辺の散歩や外気浴、日光浴、季節の花見(桜)、初詣、週1回の商店での買物、買物のついでに、行きたい場所にドライブで出かけて、車窓からの墓参りや季節を感じてもらうように支援している。利用者が無断で外出した際には、本人が納得のいくまで職員と一緒に歩くなど、コロナ禍の中でもできる限り出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が管理している		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	提案等しているが困難な方が多くできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていない	事業所は同一法人の有料老人ホームに併設しており、防火扉で仕切られている。事業所は1階と2階にユニットが配置してある。リビングは大きなガラス窓からの自然光で明るく、神社の森や街並みが見えて季節の移り変わりを感じることができる。室内には大きなテーブルと椅子、テレビの前にはソファがゆったりと配置してあり、次亜水とアルコールの加湿器等が置かれている。リビングの奥にあるキッチンからは、利用者と職員が一緒に食事の準備をしている音や匂いがして、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気、清潔、消毒に配慮して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ていない		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていない	ベッド、寝具、エアマット、箆筒、衣装ケース、衣裳かけスタンド、3段、4段ボックス、テレビ、ラジカセ、時計、椅子、クッション、ぬいぐるみ、仏壇、位牌等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族や自分の写真、日めくりカレンダー、造花、折り紙、表彰状(ぬり絵コンクール優勝)を飾っている。毎日、仏壇にお水を供えるなど、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	していない		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム大小路

作成日：令和 3 年 10 月 5 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	転倒・誤薬・離設等を未然に防ぐための様々な予防策が有るが、個々の理解、習得度に差がある。一定のスキルが身に着けられるよう支援が必要。	職員一人一人の支援技術について、点検を行い、必要に応じて指導を行う事が出来る。	毎月の会議で法人の支援、接遇指針の読み合わせを定期的に行い、読み合わせた内容について、職員の理解度を確認。 フロアのリーダー職員と個々の技術について評価、個別の指導方針を共有し、実施する。	半年間
2	4	各職員と定期的な面談、ケア内容への質問等、アンケートの実施を行い把握に努めている。様々なケアへ評価、方針について、個々ではなく、職員全体の理解度が向上するよう改善したい。	個々のご利用者様に対して設けたケア目標が、個々の理解度によってぶれることなく、一定の品質で提供できるよう、全体の理解力を向上させる。	月一回開催している全体会議を通じて、利用者様やご家族、個々の職員からの意見をテーマに議論。 課題の分析から、解決までを可能な限り全職員で実施する。	1年間
3	36	施設単独の計画となっており、地域と連携して避難等の訓練の計画、実践がされていない。	地域民生委員、運営推進会議の参加メンバーと協力し災害計画について、議論、施設職員が地域で果たせる役割について議論、計画を検討する。	例：ハザードマップを参考に、土砂災害等で避難の必要なエリアの高齢者の状況の把握を、地域民生員等と協力して行い、避難困難者の避難誘導に協力体制が取れる様情報交換する。過去に地域との協力の実績のある活動について提案していく。※コロナ対策の為、直接会合を設ける事が難しい為、手紙等のやり取りも検討する。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。